

【研究会抄録】

日本東洋医学会中四国支部島根県部会
第18回学術総会講演会

日 時：平成19年10月21日 13:00~16:30

会 場：浜田ステーションホテル

大会実行委員 長：能美 強 (益田市)

県部会事務局：児玉 啓介 (出雲市)

1. 類方鑑別のためのポピュラーな腹部圧痛点

北村内科クリニック

北村健二郎

和漢診療では、何はさて置いても、お腹を触るといふことが必要なことは言を俟ちません。

治療に当たって四診をし、型の如くの腹診をしてもなお証を決め兼ねることをしばしば経験します。

このような時に和漢診療の先達が発見した定型的圧痛点には含まれていない特殊圧痛点を応用すれば、治療の確度が高まるのではないかと考えその一端を紹介し、若干の考察を加えました。

方剤と圧痛点は以下のとおりです。

頭側から順に

- (1)香蘇散 東洞の圧痛点
- (2)桂姜棗草黄辛附湯 松田の圧痛点
- (3)小建中湯 中腕
- (4)人參湯 中腕
- (5)柴胡桂枝乾姜湯 高木の圧痛点
- (6)抑肝散 高山の圧痛点
- (7)葛根湯 大塚の圧痛点
- (8)真武湯 寺師の圧痛点
- (9)治打撲一方 高木の圧痛点
- (10)当帰四逆加呉茱萸生薑湯 そけい部

これらの圧痛点を拠所にして処方を決めると80%以上の確かさで治療が奏功するとされています。発表者もこの数字程度の効果をあげられると経験的に考えています。

2. 「気虚」「気うつ」について：多施設臨床研究

島根大学医学部附属病院検査部

長井 篤, 下手 公一

児玉 啓介, 堀江 卓史

松本 祐二, 松井 龍吉

小林 祥泰

当研究グループで施行中の「気虚・気うつ臨床試験」を紹介する。「気虚」患者に補気薬であるツムラ補中益気湯エキス顆粒を「気うつ」患者に理気薬であるツムラ半夏厚朴湯エキス顆粒 (医療用) をそれぞれ投与し、安全性と有用性を検討する。「気虚」・「気うつ」とうつ状態の相関について、気虚スコア (寺澤), 気うつスコア (寺澤), 自己記入式抑うつスケール (SDS), やる気スコアを投与前, 投与1ヶ月または2ヶ月後に評価し, 100例を目標に検討する。SDS, やる気スコアは心理的側面が主な質問内容であるのに対し, 気虚・気うつスコアは身体的症状に対する質問が主である。虚証の気虚の強い76歳女性に補中益気湯を

7.5 g/日量で2ヶ月間処方した。SDS 45 35 (改善), やる気 6 8 (増悪), 気虚スコア90 28 (改善), 気うつスコア26 18 (改善) 点と推移し, 気虚は著明に改善した。気虚・気うつスコアは, うつや意欲低下を鋭敏に把握でき, 投与薬剤の効果を客観的に評価できる可能性がある。この研究を通して, 気虚・気うつスコアの客観性, 西洋的スコアとの比較, 投与薬剤の評価をおこなう予定である。

3. 妊娠により誘発された手根管症候群に対する東洋医学的治療

松江赤十字病院整形外科

小田 裕造, 秦 公平

妊娠による合併症は様々であり, 手根管症候群もその一つである。妊娠期, 授乳期に発生した手根管症候群等の疼痛性疾患に対して, 消炎鎮痛剤, その他の薬物的治療, また手術的治療も様々な薬物を使用するため, 胎児や乳児に対する影響を考え治療は困難であることが多い。出産後は自分自身の身の回りの世話のみならず乳児の世話も必要になり症状の悪化も考えられるため一段と積極的治療が望まれる。今回, 東洋医学的な随証治療を行い, 安胎薬として逆に妊娠等に対してもよい方向に働くと考えられている当帰芍薬散を使用して手根管症候群の疼痛が改善した。

4. オーストリアの東洋医学の現況

松本医院 松本 祐二

2007年9月27日から29日までの3日間オーストリアのウィーン大学にて Euro International Traditional Chinese Medicine Congress が開催され会に出席した。全体では200人から300人が登録しているようであった。学会は英語とドイツ

語で通訳はなし, 鍼灸を中心とした演題が多かった。中医学が中心となっている印象だった。医師だけでなく薬剤師の出席も多かった。会場にはインドのアーユルベーダーやチベット医学をウィーンで実践している医師もいた。別の日にはウィーン市内で東洋医学だけで自由診療で開業している診療所を見学した東洋医学はオーストリアでは一般的に保険診療として扱われていないが, 保険組合によっては自由診療の自己負担金の一部を還付してくれる組合もあるため, 変則的な保険給付となっている。完全に医薬分業でエキスも生薬もウィーン市内の薬局で対応可能であった。

5. アトピー性皮膚炎に対する通導散の使用経験

内海皮フ科医院

内海 康生

アトピー性皮膚炎に漢方治療が有効なことをよく経験する。今回は駆瘀血剤の一つである通導散を5人のアトピー性皮膚炎の患者に使ってみたところ有効例があったので報告した。継続的に治療していた顔面, 頸部に赤みの強い紅斑と瘀血を認めたアトピー性皮膚炎の患者5例に通導散を処方した。全例女性 (34歳~51歳)。5例中4例はこれまで処方していた他の駆瘀血剤を通導散に変更した。全例とも顔面または頸部の紅斑の赤みは比較的すみやかに軽減し, またうつ血も軽減したようであった。通導散の駆瘀血剤としての強さを実感した。副作用としては下痢が3例に認められたが, 服用量を減らして調整した。通導散は症例の選択を間違わなければかなり強力な駆瘀血剤として, アトピー性皮膚炎に対して有効な方剤と思われた。

6. ヨーガの呼吸法による α 波の増加と免疫系の変動について

島根難病研究所

亀井 勉

ヨーガには、多彩な生理学的効果があることがわかってきている。ヨーガを数年以上経験しているインストラクター8名を被験者として、脳波と免疫能の変化を調べ、両者の相関性の有無について検討した。その結果、呼吸法（プラーナーヤマ）における α 波の出現率の増加とNK活性の上昇との間には正の相関が、同じく α 波の出現率の増加とT細胞系リンパ球の増加との間にも正の相関が見出された。一方、 α 波の出現率の増加とB細胞系リンパ球の増加との間には負の相関がみられた。ヨーガの呼吸法には、短時間のうちに α 波を増加させるとともに免疫系のバランスを細胞性免疫能の方にシフトさせる効果があるものと考えられた。ヨーガの本来の意味は「再結合」であるが、ヨーガには、その時代・環境の変化などにより求められる人間の適応能力を補強し、免疫系のホメオスタシスを必要に応じて再調整させる効果があるのではないかと推測された。

【特別講演】

「女性外来と漢方医学」

千葉県衛生研究所所長

千葉県立東金病院副院長

天野 恵子

2001年に鹿児島大学、千葉県立東金病院と女性外来の設立に携わった。設立の目的は、現在の医療体系の中で、的確な診断、治療に預かっていない女性特有の疾患の掘り起こしと研究であった。女性外来の登場は、微小血管狭心症、線維筋痛症、慢性疲労症候群などあらたな疾患の掘り起こし、従来診断と治療についてはおおよそ確立されているものの、その医療サービスの現場で女性が違和感を感じていた分野（泌尿器科、産婦人科、乳腺外科、肛門科、精神科）での受診時の敷居を低くするなどに威力を発揮した。しかし、現場での満足度、問題解決度に大きく寄与したものは、初診は30分に見られるコミュニケーションスキルと治療における東洋医学の採用である。現在、NPO法人性差医療情報ネットワーク（代表天野恵子）は女性外来担当医師のための漢方ならびにメンタルセミナーを全国で展開している。その結果女性外来での有効治療の4割を漢方が占めている。